容器包装3Rのための自主行動計画2030を策定 [2026年5月公表]

3R推進団体連絡会は、容器包装リサイクル法の対象である、ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装、プラスチック容器包装、スチール缶、アルミ缶、飲料用紙容器、段ボールの8素材の容器包装の3R推進に係る八団体により、2005年12月に結成されました。資源循環型社会の構築に寄与するため、容器包装リサイクル法に基づく分別収集と再商品化をはじめ、3Rを一層効率的に推進するため広範にわたる事業を行っています。

「容器包装3Rのための自主行動計画」は、2006年度から2010年度までの第1次自主行動計画以来、5年ごとの計画見直しを行っており、この度策定した「容器包装3Rのための自主行動計画2030」は、第5次自主行動計画に当たります。

※5か年計画策定にあたっての詳細はP13を参照ください。

PETボトルの自主行動計画2030

1. 3Rの推進目標

(1)石油由来樹脂の使用量削減 [新規石油由来樹脂削減率]

リデュースとリサイクルに加え、原材料として再生材およびバイオマス材の使用を推進して、石油由来樹脂の使用量(新規投入)を2004年度比65%削減します。新規石油由来樹脂の削減率は、製品の軽量化による樹脂の削減分と再生材・バイオマス材への代替による削減分を合わせた効果として算出します。

これを実現するために、以下(2)～(4)の個別目標を設定します。

(2)リデュース [軽量化率]

指定PETボトル全体で2004年度比30%以上の軽量化を目指します。

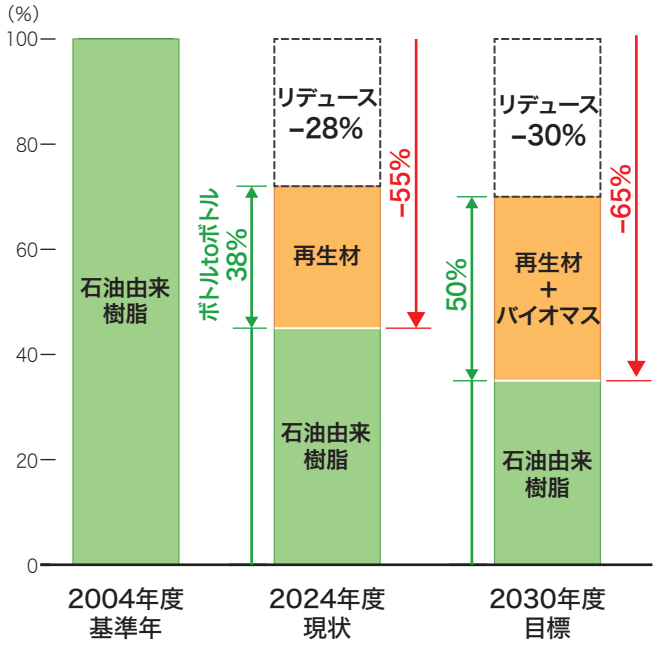
(3)リサイクル [リサイクル率]

リサイクル率85%以上の維持を目指します。

(4)水平リサイクル [ボトルtoボトル比率]

水平リサイクルであるボトルtoボトル比率50%を目指します。

図1. 3R・資源循環目標イメージ



2. 環境配慮設計の充実

- 「PETボトルの環境配慮設計指針」に基づき、環境配慮設計を推進します。
- ボトルtoボトルの進捗やラベルレス化など業界の取り組みに連動して、サステナブルなPETボトルの循環の観点から「指定PETボトルの自主設計ガイドライン」のさらなる充実を図るとともに、会員企業のみならず国内でPETボトルを使用して中身を販売する事業者(輸入業者を含む)への遵守要請の活動を行います。

3. 広報・啓発活動

消費者、自治体へ積極的に広報および啓発を推進します。

- 年次報告書、広報誌の発行と情報の周知(報道発表、webサイト、メールニュース)
- 展示会、地域イベントへの参加
- 普及・啓発ツールの作成およびリサイクルプラザなどへの提供
- PETボトルリサイクル推奨マークの普及推進

調査・研究活動

- PETボトルのマテリアルフローの調査精度向上
- LCAデータの充実
- 海洋プラスチック問題に係る科学的知見の調査・研究
- 海外でのリサイクルおよび資源循環の実態視察調査(東南アジア、欧州など)